

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策Ⅲ-4-1 多様な自然の保全
---------	---------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	環境政策課長 小池 誠	電話番号	0852-22-5345
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	穴道湖・中海賢明利用推進事業		
目的	(1) 対象	県民、民間団体等	
	(2) 意図	ラムサール条約湿地に登録された穴道湖・中海の「環境保全」と「賢明利用（ワイズユース）」の取り組みを一層推進し、世界に認められた両湖の豊かな自然環境を次世代に継承する。	
事業概要	ラムサール条約湿地である穴道湖・中海の水環境保全・再生・賢明利用の推進のため、島根・鳥取両県連携により普及啓発活動や栄養塩循環システム自立支援事業を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 シンポジウムの参加者数	目標値	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	人
		取組目標値						
	式・定義 シンポジウムの参加者数	実績値	1,500.0	320.0				%
	達成率	375.0	80.0	-	-	-		
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
	達成率	-	-	-	-	-		

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	5,306	4,200
うち一般財源 (千円)	5,306	734

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> ラムサール条約湿地の子どもたち同士の交流会を実施。また、環境省、鳥取県、日本国際湿地保全連合、中海・穴道湖・大山圏域市長会などと共同で、全国の湿地で活動する関係者や地元住民の参加による「ラムサールシンポジウム2016in中海・穴道湖」開催した。 栄養塩循環システム自立支援事業について、2つの団体が事業に取り組んでいる。 穴道湖・中海の恵みによる料理講習、アジアオノリ養殖、湖岸清掃など住民・団体等による環境保全、賢明利用の取り組みも出てきている。
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 島根・鳥取両県の連携のみならず、日本国際湿地保全連合や中海・穴道湖・大山圏域市長会の主催するイベントなどとの情報共有や連携が図られた。 栄養塩循環システムモデルの構築は、システムの自立を支援する補助事業に移行し、3年を経過した。その間、海藻肥料の製造・販売を行う企業が創業するなど成果が見られ循環利用の形が具体化してきている。
--

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 賢明利用にかかる活動への住民の参加等は、まだ広がりが少ない。 栄養塩循環システムモデルの取組は徐々に進められているが、海藻刈り取り、肥料製造にかかるコスト削減が難しい。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 賢明利用の内容は多岐にわたるので、各団体等の活動が限定されている。 肥料の原材料は、海藻以外に安価なものがあり、肥料製造にかかるコストの削減や、他の肥料とある程度の競争が出来る要素がないと、利用者の積極的な活用につながらない。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民意識を盛り上げていくためには、各活動団体と連携するなど、地道に普及啓発活動を継続していく必要がある。 栄養塩循環システム自立支援については、システムの形ができ、海藻肥料の利用者も増えつつある。さらに利用者を増やすため、海藻肥料で作った農作物に付加価値をつけて販売するなど、肥料の利用促進を図る必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 穴道湖、中海はラムサール条約湿地登録から10年を経過。記念イベントや全国シンポジウム等を実施し高まった気運を持続し、水質や生態系などの湖沼環境の保全についての普及を図り、多くの人に穴道湖・中海に関心を持ってもらうために、啓発活動を継続し、賢明利用の推進する。 栄養塩循環システム自立支援については、コストの縮減や海藻肥料の利用促進につながる取組など、今後も課題解決に向け事業者等と連携して取り組む。
--